

二十歳のころ

B 班 伊藤 伊良部 鹿島 山下

はじめに

私たちは第一線で活躍されている大企業はどのようにして今の地位を築いたのか、そのトップに立つ人はどのような信念を持っているか、そして今の私たちがすべきことは何かということについてお聞きしたいと考えた。そこで、私たちの身近にあり、大企業である吉野家ホールディングスに深く興味を持った。そこで吉野家ホールディングスの代表取締役社長を務めていらっしゃる河村様にお話を伺う機会をいただいた。

取材させていただいた方

吉野家ホールディングス

1999 年創業以来、国内外で 46 社のグループ会社を展開しており、牛丼チェーン店である吉野家を主軸として活動されている。

吉野家ホールディングス 代表取締役社長 河村 泰貴 様大阪府出身。吉野家で 5 年間アルバイトを経験した後、1993 年に吉野家ホールディングス入社。2007 年に株式会社はなまる、2012 年に吉野家ホールディングス、2014 年には株式会社吉野家を兼任。様々な企業の代表取締役社長に就任し目覚ましいご活躍をされている。

インタビューの内容

Q：二十歳のころ、何をして何を目指していたか。

A：大学を 2 回中退し、アルバイトを行う生活をしてきた。その当時明確に目指しているものはなく毎日が楽しければそれでいいと思って過ごしていた。だが、正社員になるという転機が訪れ、何も持たない人間がなにかになりたいと思うのなら努力するしかないと思い、この時から真剣に人生や仕事に考え始め、河村様は仕事に打ち込んでいった。

Q：人を動かすために何が必要か、上に立つ人間として意識していることは？

A：人の上に立つという感覚はなく、組織を代表する立場だと自覚している。
人は合理的に正しいから動くのではなく、自分のやりたいことを重要視するものである。
いかに共感してもらえるかを意識して行動している。

Q：成功や失敗から今活かされていることは？

A：皆すべからく努力しており、成功と失敗の分かれ目は運が左右することが多く、実は成功から学ぶことは少ない。失敗した場合、その原因を掘り下げることによって、同じ失敗を防ぐことができるため、失敗から学ぶことは大事。経営戦略において、いろいろなことに取り組むリスク分散型も吉野家ホールディングスが行っていたとことん突き詰めていく一点集中型もどちらが優れているか正解はない。

Q：河村様が働く上で大事にしていることは？

A：誰にでも出来る仕事ではなく自分にしかできないことを行うということを大切に考えている。若いころは誰でもできる仕事はあまり長く自分の時間を使わないようにするためにどうやって効率をあげるかということ意識して仕事に打ち込んでいた。
若かった時からレスポンスの早さは大切に、レスポンスを早くするというのは社外の方に対して社内でも同じように今でもずっと意識をしている。早さは価値であり、人間関係において、仕事のみならずその人のことを大事だと思うならば、とにかく早く反応するというのは心がけておいて損はないと考えている。

Q：社長という立場において一番のやりがい、楽しみは？

A：会社が成果を上げたときや、期待する以上に社員が成長するとき。
吉野家ホールディングスの社長という肩書を持っていろいろな人に会えること。人と出会うことで自分自身の学び、刺激を受ける。

Q：飲食業ならではの魅力とは？

A：製造業は分業化が進んでおり、その分野の専門性を高めやすい。一方で飲食業は部分最適が難しいために様々なスキルを学ぶことができる。また、店を出すなどで自己表現がしやすいところである。

吉野家は日常食を提供しており、お客様も従業員も人を選ばないビジネスであるところが魅力である。

Q：二十歳を迎える私たちがやるべきことは？

A：興味のあることを学び、やりたいことをやるべきである。

これからの人生勉強に専念できるのは、大学生活のみであり、その期間にできるだけ多くの学びをすることが大事である。また、20歳という若さは無限の可能性を秘めているためやりたいことに突っ走ってほしい。

Q：どうして起業を薦めるのか？

A：社会人としての多くのスキルが身につく。

起業をすると、一人で会社のすべてをやらなければならない。例えば人事、営業、宣伝、販売、経理、会計などの多種類の業務をこなさなければならない。この多くの業務を時間という制約の中でこなさなければならないため、自分のスキルになる。

Q：私たちが働くうえで大事にしてほしいことは？

A：3年間一生懸命努力してほしい。

多くの会社は3年間働けば、会社全体のことは大体わかるようになる。1年では辛いことも楽しいことも、自分がこの会社で何を実現できるかも、分からない。だからこそ3年間はおれずに続けてほしい。

また、3年間一生懸命努力すれば、それが習慣になる。成長というのは一生懸命にやることでできるもの。だからこそ、一生懸命を習慣にすることで常に自分の成長につながる。

インタビューを終えて

大企業である吉野家ホールディングスの河村様にご自身の経験から考え出された大変興味深いお話を聞くことができた。「早さは価値である」という言葉をお聞きし、実生活において何事にも早く行動を起こすということは、時間を有効に使う一番の手段であり、それを意識している人が会社に求められる優れた人材なのではないかと改めて痛感した。

このインタビューを通して私たちは、漠然としたイメージしか持つことが出来ていなかった自分たちが成長していくために何が必要であるのか、そのためにどうするべきであるのかということへの答について考えることが出来た。

今回の企画、そして河村様のインタビューを通して、二十歳という節目の年齢で大人への第一歩という時期に、自分自身を再度見つめ直すための良いきっかけをいただいた。これから先の見えない人生に対する不安や迷いがあるが、この貴重な経験を糧にして精進していきたい。

最後にお忙しい中貴重な時間をいただき、オンライン上ではありますが、私たちのインタビューを快く承諾して下さった河村様に心より感謝し、改めて御礼申し上げます。